

平成 28 年夏季ボーナスアンケート調査

## 今夏のボーナス予想支給額は、改善傾向から一転、悪化へ

～2年ぶりに「下回る」割合が「上回る」割合を超える～

平成 28 年夏季のボーナスについて、予想支給額・使い道などを、官公庁・民間企業等に勤務する給与所得者世帯を対象にアンケート調査を行いました。

### 【ポイント】

#### ボーナス支給額の増減予想（昨年夏比）

全体（官公庁・民間企業等）では、「上回る」が 10.2%、「下回る」が 16.1%となり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は 5.9（昨年夏 1.8）と、2年ぶりにマイナスに転じた。民間企業では製造業、非製造業ともに悪化した（製造業：昨夏 4.3 今夏 23.7、非製造業：同 1.6 同 13.1）。また、年代別にみると、10・20代は大幅な改善となったが、30代以上では悪化となった。

#### ボーナス予想支給額

「20万円未満」、「60～80万円未満」の割合が増加し、20～60万円未満（「20～40万円未満」、「40～60万円未満」）の割合が減少した。

#### ボーナスの使い道

首位は「預貯金」と堅実な姿勢が継続している。昨年夏と比べ「生活費補てん」、「借入金返済」の割合が増加した一方で、「学費」、「旅行・レジャー」の割合が減少した。

#### ボーナスを貯蓄する目的

首位は「老後の生活への備え」、続いて「特に目的はないが安心だから」となった。また、「老後の生活への備え」は昨年夏よりも増加した。

#### ボーナスの運用方法

「銀行普通預金」が 65.6%と最多であり、例年通り「銀行定期預金」、「財形貯蓄」と続いたが、昨年 4 位であった「銀行貯蓄預金」が順位を 2 つ下げた。一方、「保険商品」を除く、「投資信託」などのリスク性商品については、昨年夏と比べて、いずれもその割合は減少した。

### 【調査要領】

1. 期 間 平成 28 年 6 月 1 日～6 月 14 日
2. 対 象 鳥取県・島根県在住の給与所得世帯
3. 調査方法 山陰合同銀行本支店等の店頭にてアンケート用紙を配布（配布数：2,450 枚）、返信用封筒により回収
4. 回 答 数 有効回答数 633 枚（回収率 25.8%）  
（県別内訳：鳥取県 327 枚、島根県 302 枚、不明 4 枚）